

外部評価

平成28年度 日本橋中学校 外部評価報告書

評価委員：岩田 博委員、高橋 道儀委員、小林 由里委員、喜多 隆正委員、倉谷 通孝委員
報告書作成者：副校長 青柳美由紀

評価時期 平成29年1月

1 重点目標の評価

重点目標1：生徒一人一人を大切に学習指導で学びの質を保障し、確かな学力の向上を図る。
評価項目：確かな学力の向上と定着

- ・学校の発行する「日本橋中」等により、学習指導や生徒の状況が報告されている中で適正な運営がなされている。
- ・家庭との通信ノート等により生徒の学習について意見交換等がなされている。
- ・年に数回だが、授業を参観した際には、生徒は落ち着いた様子で学習に取り組む姿がみえた。また、多くの生徒が、漢検・英検等、積極的に受験していた。
- ・各授業の中身まで十分に理解はしていないが、確かな学力向上はあるとの声は一部父兄から聞いている。
- ・落ち着いた授業環境が保たれている。検定の日程には工夫が必要（検定出題内容と授業内容の進み方が不一致も）
- ・授業中の様子から、丁寧な指導、授業が行われている。不登校の生徒が多くなっていると聞くが、この問題は、家庭問題に主な要因がある様に思う。行政と計り、全区で対策を講じていくべき。
- ・学校公開やその他の機会に授業を見ているが、授業態度の悪い生徒もなく、真面目に取り組んでいる姿勢は先生方の指導の賜物と感謝している。
- ・年間指導計画はびっしり内容が詰まっており、課外活動に割く時間がないほどだが、先生と生徒たちはともに頑張っている姿に敬意を表したい。

重点目標2：暴力やいじめがなく、生徒同士、生徒と教師が、規律をもって豊かに関わり合う。
評価項目：豊かな人間性の育成

- ・校内の生徒はあいさつ等はよくできているので、明るい環境の中で学校生活を送っている。
- ・掲示物等で学校内への生徒から生徒への呼びかけなどが見られる事や部活等にいそしむ姿を見ていると仲間意識はできていると思う。
- ・運動会、学習発表会での生徒は、一人一人が意欲的に参加している様子、又、その生徒を応援する保護者の姿がみられる。これは、教師と生徒（家庭も含め）が互いに信頼関係が築けている事の現れであると思われる。
- ・いじめ等の問題は昔からあったが、生徒たちが悩む度合いが大きく、子どもたちの中で親分子分的な解決策が少なくなっている。
- ・全体的におとなしく道徳心も強いように感じる。生徒の主体的取り組みについては道半ばではと感じる。さらなる「生徒を主体とする」という大人の意識の高揚が必要。
- ・生徒会の活動や生徒下校中の様子からは、いじめは目につきません。部活に全員参加し、何らかの勉強以外の目標をもつのが大切かと思う。
- ・全体的に素直な生徒が多いと感じるが、各々がもう少し自己主張をする様な積極性が欲しい。

- ・不登校については問題が大きくなる前にお互いに情報を交換し、解決することが重要。

重点目標3：日々の学校生活を健康・安全に過ごすとともに、将来展望性をもたせる活動を充実させる。

評価項目：生涯にわたって健康に過ごせる心身の育成

- ・すべて学校としての行事に取り入れられている。
- ・職場体験の感想は掲示されている事や、講演会における生徒の聞く姿勢も良い。
- ・校内又は地域で生徒を見る限り、乱れた様子はなく、心身共に健康に生活している様に見受けられる。
- ・講演会等、学校以外の先生方の話は効果があると思う。
- ・限られた時間数の中で計画的に活動している。一つ一つの活動の目的と他に、全体的複合的目的も視野に計画されている。その事が教員、生徒、保護者に理解が深まればさらに効果が上がる。
- ・毎年行われている講演会は大変意義が有り、身に付くように思う。これからも日本橋中の柱として行ってほしい。
- ・毎年行っている職場体験は、子どもたちの将来展望を育む大切な活動になっている。

家庭や地域との連携

- ・家庭とのサプリノートにて親の意見があまり多くないとの事が今後どれ位多くなるか。
- ・学年だより等はよく発信されている。
- ・地域活動も良く行っている。
- ・学校は、充分に取り組んでいると思います。問題は、そこから、こぼれ落ちてしまう生徒や家庭が少なからずある。それらに対する取り組みは、どの様に成されているのか。
- ・吹奏楽部の活動は外の部活動にも好影響を与えている。
- ・家庭による差が大きくなっている。多くの家庭を巻き込むさらなる施策が必要。
- ・サプリノートは定評がある。先生方にはご苦労様だが、ぜひ継続を。広報は「すみだ川」「日本橋中」とも学校の様子が良く解るので大変良い資料だ。
- ・サプリノートを通じて、生徒、先生、家庭の連携が密に取れている事は、子供たちの学校生活を充実なるものにする為に、欠かせない取組みだ。
- ・教育は生徒、父兄、学校がその目標に向け、よい連携を保ちながら進んでいくことが重要と考える。その意味で、サプリノートというシステムがその後も順調に行われていることを望みたい。
- ・会社が学校に近いため、学校に通学する生徒たちを見る機会が多いが、生徒たちは皆真面目に早足で歩く姿は頼もしい限りで、通学する生徒たちに外見から問題点は見つからない。学校に行くと丁寧にあいさつすることが習慣として身に付いている。

2 今後の改善に向けた意見

- ・全般的に良い方向に向っている。
- ・生徒が「学校が楽しい」と言ってくると良い。
- ・何れにしても、今まで、繰り返し続けてきた様々な取り組みをこれからもコツコツ続けていく事が大事だ。
- ・学校としての教育計画を教師一人一人、保護者にもっと理解してもらう必要を感じる。
- ・全員卒業を目標にご指導のほど（行政に提案して全区的なプロジェクトを組織してみてもどうか。
1 学校単位の問題ではない様に思うが）

- ・部活動の充実を計る為に、浜町グラウンドや体育館の活用を考えるべき。

3 その他の意見

- ・道徳の授業が教科になった時、個々の教師の力の差が、直ぐに反映されるのではと危惧している。
- ・中高一貫を推進すべき。
- ・生徒はまだ未熟であるが大人が生徒を個人として信頼し対応する事で生徒は成長する。大人の強い意志が求められている。
- ・最近、一段と生徒達の表情、挨拶が「明るく、ハッキリとして」清々しささえ覚える。
- ・一般的に物事が上手く進まない場合は当事者間のコミュニケーション不足が原因となる事が多いので、生徒、先生、家庭相互に密に連携し、問題の芽が大きくなる前に対処していくことが大切。
- ・本校の卒業生が大変お世話になっている。また中学校ブラスバンドの本校での演奏会は地域 保護者の方々が大変たのしみになっている。これからもよろしくお願ひしたい。